

第2回愛知県栄養塩管理検討会議での主な意見と対応

分類	委員	発言内容	本会議または今後の対応
数値シミュレーションに関する事	井上	シミュレーションで、放流されたものがどこにどのように到達して、それによってアサリやノリの養殖等にどのように効いているのかという資料が示されると、説得力があって良い。	資料4で2022年度再現シミュレーションの計算条件や現時点の結果の概要を示した。水温、塩分、栄養塩などを含めて生態系モデルを運用し、現況を再現、栄養塩についての感度解析を行っている。栄養塩管理のあり方検討に必要な項目から検討を進めていく計画である。
	速水	資料として示されたデータに限られており、水温等、その他のデータも含め、何のデータを用いてシミュレーションするのかこの会議で示していくことが重要。	
	亀井	シミュレーションでは、必要な栄養塩濃度だけでなく、例えば、必要な水温なども示されるのか。	
効果調査の方法に関する事	井上	①範囲を広げて調査をすれば、より明確になる。 ②一覧表か何かでデータを示してもらおうと良い。1回の調査で1枚ぐらいの表のイメージ。	①調査で不足する部分については数値シミュレーションを活用して補足していく。 ②委員全員にデータの一覧表を送付しました。
	岡辺	①クロロフィルa等の広域なモニタリングであれば、今は解像度が高い衛星データがあり、この衛星画像等を利用する方法がある。 ②アサリの生残率が上がっていることについて、コホート解析は行ったか。H30からアサリの生残が良くなったことを補足できる。	①沿岸域では分析値との乖離があるが、活用方法については検討していく。 ②2023年度調査結果について、大別したコホート毎に示した。
社会実験や検討会議、管理運転等全般に関する事	黒田	①アサリの生存率が良くなってきて、ノリも長くできるいい状態。効果はあるので、もう少し続けてもらえれば、本当に結果につながってくる。 ②伊勢湾の方にも目を向けてもらって、伊勢・三河湾双方が再生できるようにやってほしい。	今後、栄養塩管理をどう進めるかについては、社会実験の結果を踏まえて検討する。
	黒田 藤村 鈴木	浄化センターは放流濃度を日間平均の値で厳しく管理しており大変なので、月単位にするなど少し緩くなると良い。	